

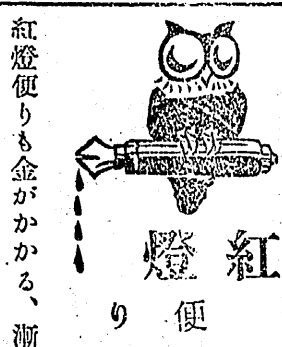




連載小説(中篇) 「旅鳥清水土産」【4】

遠藤 紳作

嘔吐をよほした様な、不くの算段をして五十銭玉一  
快な感情がむくくと胸にツを懐にして女群借列の中  
つき上げて来た。  
半五郎は、忠兵衛が床に就々たるカフエーホーライで  
いてからは、此の川邊りのある、年頃の女群の異丈け  
物持ちの離れ座敷を借りてあつて女鼻を突く格別嫌  
むたのだが、来ると早々かた感じはしなかつたが、良  
ら、主家の一人娘お春の仇き鴨御参と思ふたか總勢七  
つぼさとお執幼きに、少なからぬ同じ様な顔が並んだ。  
「紅茶一杯の注文に當がはす  
らす橋まされて来てゐるの  
である。  
半五郎は、女の手を軽く拂か、いつの間にか皆去つて  
つてからぼんと立ち上つて  
見向きもする效がなくなつ  
たと思ふたか懐が讀めた  
『實は、今夜も親分の處へた、そこに現れたのがホー  
行かなくちやならぬえ、是ライ第一と一目で知れる年  
非なえ事だ、まあ勘辨して子娘である、年業も半熟顔  
くんねえ』と、無愛想に銀立も女らしく、淫ならず犯  
ごしらへの絞袖の長脇差をしがたい一面もある、ハハ  
片手に掴むと、そのまゝ駒一これが見板かと思ふて、  
下駄を引つけて表へ出たる處に見参したのが清子嬢  
降る様な星群、八王子迄二  
造作が小ちんまりとした愛  
里十丁と夜目にも白い道  
標へ——稻荷の森の手前江  
戸へ通する間道筋、右手は  
もう喬木に近い桑の畑、葉  
がくれに森の明りが狐火の  
様に淡くまばたく、左はだ  
だッ広い野原畑だ、



紅燈便りも金がかかる、漸  
紅燈便り  
廣告の御用は  
常磐新聞社

セントー  
建築材料  
和洋金物  
黄金屋金物店  
小名濱町中島通り  
電話五十番

ダツチ、シボレー、フォード  
部分品販賣、並に修繕  
中川モーター商會  
小名濱町古港

忘年宴會は  
必ず御氣に召す別館本店へ!!!

高等御旅館  
高級御料理  
吉田屋別館  
小名濱海岸  
電話十四番

大眾向御旅館  
不易なる食堂  
吉田屋本店  
小名濱町中島

祝申  
造花を御求めになる時は是非  
技術有る新らしき品を御買求  
め願ひます  
平四丁目局通り  
電話五五〇番

造花  
問屋  
山光堂  
造花博士 花信

口腔外科  
齒科一般  
池部齒科醫院  
江名町

内科、小兒科  
婦人科、花病科  
久保田醫院  
小名濱二番町  
電話二二番

森  
合  
院醫科齒  
町田植

木材製板  
建築用材  
建築請負  
建築又は用材の御下命は當店へ  
御報參上御見積り可申候

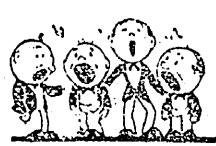
秋山製材所  
植田町 電話六二番

期日は確實に致します  
是非御引立を願ひます  
ミンシ生徒募集  
磐城女子洋裁専門學院  
平町二丁目二番地

内科外科  
花柳病科  
小兒科  
會田醫院  
院長 會田 亮  
小名濱町上横町

大正火保災險株式會社  
三井生命保險株式會社  
代理店  
磐城水産工業株式會社  
小名濱町築港内  
電話一四四番

〇やき  
最新なる風味の良  
大學いも  
平町四丁目  
郵便局裏通り  
あづま屋



きめられる  
病薬 妙淋丹 十日分  
販賣先 小名濱町中島本通り 電話三番  
シライシヤクホ

磐城セメント特約代理店  
良品廉賣に勝る商略なし

釜屋商店  
電話九番九九番  
電話九番九九番  
東京振替貯金口座一〇九五六番